

2010年1月25日

「ベンガラ研究会 in 多治見」開催

—古代遺跡出土ベンガラと赤色酸化鉄顔料—

【趣旨】

酸化鉄赤色顔料であるベンガラは古くから利用されている材料であるが、近年、環境問題や考古学などの観点から非常に注目され始めている。例えば、人体への安全を配慮した陶磁器の無鉛釉薬使用時の色鮮やかな赤色顔料の開発が緊急の課題となっている。さらに、考古学の分野では、古代遺跡出土ベンガラの特徴の解明が大きな課題となっている。

このような背景から、我々の研究グループは約10年前から、様々な酸化鉄ベンガラの研究を進めているが、さらなる展開を目指して、種々の学外研究者と連携を図りながら、多様なベンガラの研究および開発を最近精力的に実施している。平成20年度からは、文科省特別教育研究経費により岡山大学の重点プロジェクトの1つとして活発に研究を展開している。

今回、日本でも有数の陶磁器の産地である多治見地区において、著名な陶磁器研究機関である多治見市陶磁器意匠研究所のご協力を得て、「ベンガラ研究会 in 多治見」の開催を企画しました。この研究会では、上記の研究課題について、多分野の研究者に参加いただき、多角的・総合的に議論をして理解を深めるとともに、新しい次の展開を検討することを目的としています。

【研究会開催日時&会場】

- ・ 日時：平成22年2月25日（木）13：00～18：00
平成22年2月26日（金）10：00～17：30
- ・ 会場：多治見市陶磁器意匠研究所
多治見市文化財保護センター
愛知県陶磁資料館

以上

「ベンガラ研究会 in 多治見」プログラム

<2月25日(木)> 研究講演会 13:00~18:00

(於：多治見市陶磁器意匠研究所)

・・・タイトルなど仮

- ・ 13:00~13:15 挨拶と研究会説明 岡山大学・高田潤
- ・ 13:15~13:30 自己紹介
- ・ 13:30~14:00 「多治見市陶磁器意匠研究所の紹介」
多治見市陶磁器意匠研究所・次長 加藤昌宏
- ・ 14:00~14:30 「多治見市陶磁器意匠研究所での各種釉薬の研究」(仮)
多治見市陶磁器意匠研究所・主査 水野義久
- ・ 14:30~15:00 「備前焼緋襷模様の材料科学的研究」
倉敷芸術科学大学芸術学部：草野圭弘

<休憩> 15:00~15:15

- ・ 15:15~15:45 「 β -Fe₂O₃の合成」
岡山大学・團野、池田靖訓
- ・ 15:45~16:15 「赤色顔料を用いた弥生時代の彩色土器」(仮)
九州大学大学院博士課程・石田智子
- ・ 16:15~16:45 「熊本県古代遺跡における赤色顔料」
熊本県教育庁：宮崎敬士
- ・ 16:45~17:15 「鹿児島県古代遺跡における赤色顔料」
鹿児島県埋蔵文化財センター：内山伸明
- ・ 17:15~17:45 「熊本県下扇原遺跡出土ベンガラのキャラクターゼーション」
奈良文化財研究所&岡山大学自然科学研究科 辻広美
- ・ 17:45~18:00 総合討論

<予備> 「吹屋ベンガラにならう AI 置換ベンガラの開発研究」

(岡山大学 高田潤)